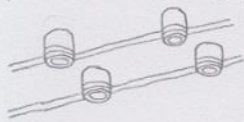


429. かいし引き工事・合成樹脂管工事

<かいし引き工事>



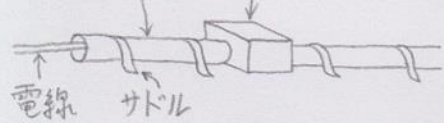
④特徴:電線をかいて支持して施設する工事で、経済的で工法も比較的簡単であるが、広い施設スペースが必要である

⑤施設方法

- ①電線:・絶縁電線(屋外用ビニル絶縁電線および引込用ビニル絶縁電線を除く)である事
 ②施設方法:・電線相互の間隔は、6cm以上である事・電線と造営材との離隔距離は、使用電圧が300V以下の場合には2.5cm以上、300Vを超える場合には4.5cm以上(乾燥した場所に施設する場合は2.5cm以上)である事・電線の支持点間の距離は、電線を造営材の上面または側面に沿って取り付ける場合は2m以下、それ以外の場合で、使用電圧が300Vを超えるものは6m以下である事・使用電圧が300V以下の場合には簡易接触防護措置、300Vを超える場合は接触防護措置を施す事・電線が造営材を貫通する場合は、原則としてその貫通する部分の電線を電線ごと、それぞれ別個の難燃性および耐水性の有る物で絶縁する事

<合成樹脂管工事>

アウトレットボックス
 (電線の接続、器具の取付などを行う)
 硬質ビニル管



④特徴:合成樹脂管の中に絶縁電線を引き入れて施設するもので、金属管工事より安価で、施工が容易である他、絶縁性が良く、耐薬品性に優れているなど多くの長所を持っているが、機械的衝撃や熱に対しては金属管より弱いので、重量物の圧力または著しい機械的衝撃力を受ける恐れが無いように施設する必要がある

- ⑤施設方法 ①電線:・絶縁電線(屋外用ビニル絶縁電線を除く)である事・より線または直径3.2mm(アルミ線にあては4mm)以下の単線である事←ただし、短小な合成樹脂管に収める物は除かれる・合成樹脂管内では、電線に接続点を設けない事 ②合成樹脂管等:・管(合成樹脂製可とう管およびCD管を除く)の厚さは、2mm以上である事←ただし、使用電圧が300V以下で乾燥した展開した場所、または乾燥した点検できる隠ぺい場所に接触防護措置を施して施設する場合は、2mm以下とする事ができる ③施設方法:・管の支持点間の距離は1.5m以下とする事・湿気が多い場所または水気のある場所に施設する場合は、防湿装置を施す事



合成樹脂管工事のイメージを固めたければ、電気工事士試験の勉強をしてみるという手もある

合成樹脂管工事には多くの長所があるけれど、重量物の圧力や機械的衝撃を受けると、頑丈な金属管工事を選択するのね

